

東お多福山草原保全活動 3年間の実績とこれからの活動

東お多福山草原保全・再生研究会

東お多福山には六甲山系で唯一の広大な草原が広がっています。かつては草原生植物が豊かなススキが優占する草原でしたが、管理停止や山火事の減少が原因でネザサの勢力が強くなり、ススキや草原生植物が極端に減少した多様性の低い草原となっています。私たちは、生物多様性の保全と環境学習の場としての活用の観点から、東お多福山の草原をかつてのススキ草原に再生しようと、平成19年秋より3年計画でネザサの刈り取り管理（約600㎡）を実験的に行ってきました。

平成19年11月から100㎡の調査区を6カ所（No.1～6）設置して、調査区とその周辺のとネザサの刈り取りを行い、その後3年間の種組成、出現種数、植被の変化を定期的に調査してきました。毎年秋だけ刈り取る区（A区）と、最初の年には夏にもネザサを刈り取る区（B区）を設定したところ、ススキの被度はA区では10%と微増であったのに対し、B区では34%と大幅に増加していました（図1）。また、5㎡当たりの草原生植物の出現種数では、A区では46種から72種と2.6ポイントの増加が、B区では72種から102種と、3ポイントの増加が確認されました（図2）。また東お多福山で絶滅が危ぶまれているキキョウや、ワレモコウ、オミナエシ、スズサイコなどの草原生植物がわずかに分布していることが確認され、その周辺のネザサの刈り取りを行ったところ、個体のサイズが大きくなったほか、これまで見られなかった花や実が確認されるようになるなど、生育状況の改善が確認されました。

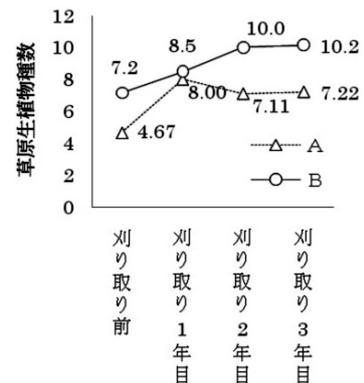
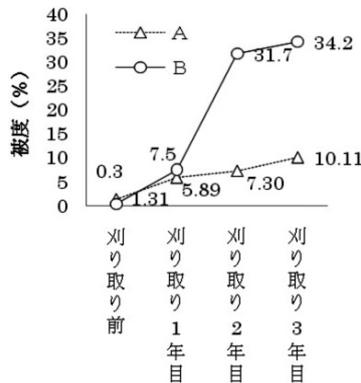


図1 刈り取り管理開始後のススキの被度の変化

図2 刈り取り管理開始後の5㎡当たりの草原生植物出現種数の変化

これらのことから、刈り取り管理を再開することで、ススキの被度や草原生植物の多様性の回復が図れるといえますが、刈り取り開始の初年度の夏にもネザサを刈り取ることがより効果的だということが判明いたしました。

今後の展開

平成19年の秋の活動開始時は、参画する市民グループ数が5団体で、刈り取り活動日の参加人数も25名と小規模な集まりでしたが、平成21年度からは兵庫県神戸県民局や神戸市などとの連携を深めるために、任意の研究会として3か月に1回の頻度で意見交換会を行って、活動が公にも認知されるよう努めてきました。周囲の支援もあり、22年の活動では、参画する市民グループ数も8団体に、刈り取り活動日の参加者も約50名と増えたほか、地元企業とも連携する機会に恵まれました。また草原再生の重要性を訴えるシンポジウムの開催や、刈り取り体験セミナーも実施し、保全活動だけでなく、環境学習支援活動も展開しつつあります。この成果をより発展させるために、平成23年1月に定款を定めたより確かな組織として研究会を発足するに至りました。今年度からは、実験結果を活かし、刈り取り面積をこれまでの600㎡から8000㎡に広げ、右のスケジュールで活動を行いますので、ご興味のある方はぜひご連絡ください。

平成23年度の活動予定	
3月23日(水)	刈取管理
7月27日(水)	刈取管理と植生調査
10月12日(水)	植生調査
10月15日(水)	草原の植物観察会（人と自然の博物館との共催予定）
11月30日(水)	刈取管理